京都帝國大學經濟學會

經濟論叢

第五十五卷第六號

昭和十七年十二月

論叢

經濟の本質について……　經濟學博士　柴田敬

史記・平準書にあらはれたる貨幣思想……　經濟學士　穗積文雄

第一次大英帝國の崩壞とアダム・スミス……　經濟學士　白杉庄一郎

研究

中小工業金融市場の構成……　經濟學士　田杉競

都市及農村人口の自然的繁殖力に就て……　經濟學士　青盛和雄

佛領印度支那の關稅改正……　經濟學士　河野健二

說苑

保險に對する認識の發展と保險學の性格的變化……　經濟學博士　小島昌太郎

南洋華僑觀……　經濟學士　鈴木總一郎

附錄

彙報

本誌第五十五卷總目錄

研究

中小工業金融市場の構成

田杉競

一　金融市場の不完全競爭

廣義の金融市場が資本市場（長期資本市場）と狹義の金融市場（短期資本市場）とに分けられることは[1]周知の如くであり、廣義の金融市場は勿論、上記のいづれも、商品市場に比すれば均一性ある資本用役が取引されるとはいへ、なほ一物一價の成立せる完全市場ではない。こゝではかゝる不完全競爭の行はれる一般金融市場において、中小工業金融市場がまた一の部分市場としての特殊性を有することを明らかにし、前者と如何なる關係にあるかを探ねたい。これは、それ自身金融市場の構成を明らかにするのみならず、中小工業金融の政策的考慮に關して示唆を與へると思はれるからである。

金融市場における價格、即ち利子は資本の需要と供給とによつて決定されること言ふ迄もない。需要價格は生産利子について見る限り、資本の限界生産力又は限界效率であり、そこでは豫想の要素が加はるから、豫想における收益の總計を資本に等しからしむる如き割引歩合が即ち資本の限界效率と見られる。[2]資本の供給は主として

1) Weber, Ad., Depositenbanken u. Spekulationsbanken, 3. Aufl., S. 169—172; Beckerath, H. v., Kapitalmarkt u. Geldmarkt; Hahn, A., Geld u. Kredit, S. 87—118, u. s. w.

2) 高田保馬、第二經濟學概論、267頁。

貯蓄から來り、その少からざる部分は利子歩合の高さに依存するが、全てがさうではない。需要と供給との均衡するところに利子が定まる。以上は貨幣側からの干渉、即ち創造信用による干渉がないとした場合の理論的歸結である。

然しながら他の商品市場におけると程度の差こそあれ、金融市場においても現はれる需要及び供給の異質性がある。中小工業者は資本用役（資金といひかへてもよいであらう）の需要者として、需要の內容あるひは條件において他の大工業者又は商業者とやゝ異つた事情にある。また供給者としての中小工業金融機關のあるものは極めて特殊なる性質と經營態度をとる。その最も顯著なるものは問屋、個人金融業者、親戚知人等である。この結果資金數量や利子歩合について見れば中小工業金融市場は一般金融市場と異つた部分市場を形成するのである。勿論それは一の部分市場であるから一般金融市場と決して切り離されてはゐない。否むしろそこから極めて大きな影響をうけ、殆ど常に中小工業金融市場は受動的關係に立つてゐる。支那事變勃發前後よりの我國金融狀勢の推移、殊にインフレーションの影響を見れば、この間の事情は明瞭であらう。

いま順序として中小工業金融市場の特殊性、即ちその需給の異質性を述べ、ついで一般金融市場との關係について論ずることゝしたい。

二　資金需要及び供給の分析

一　まづ中小工業者の資金需要の內容を分析する。第一に中小工業者において資金需要が少額であることは言ふ迄もないが、これは二の意味をもつ。一は少額であることが資金の供給者にとつて、金額の割合には高き生產

費を意味する。即ち貸付の手續、殊に信用調査の如きは一口金額の小なりとて、その割合に簡略にするわけにはゆかない。この理由からも一般金融機關はとかく中小工業金融を喜ばない。いま一つ少額なることは彼等の資本の有機的構成が低い事實と照應する。大規模工業は大なる固定設備を利用するが、中小工業は勞働集約的生產方法をとるが故に資本需要もまた小さい。設備機械は概ね簡易なるものにとゞまる。

第二に資金需要の中で設備資金需要が比較的少く、運轉資金需要が多いことを知らねばならぬ。然しこれは上の如き生產方法の結果であり、屢ゝ論ぜられるところ[3]であるから更めて說くを要せぬ。たゞ簡單なる設備さへあれば、若干の運轉資金の融通と、時には原料までも問屋より支給をうけて經營することが出來るから、運轉資金の需要は比較的多く、それは工業者の規模の大小によつて、即ち資力と信用の相違によつて、或は問屋、原料商よりの實物支給にまつか、彼等よりの資金融通に仰ぐか、更に進んで銀行その他一般金融機關に仰ぐかの變化があることを注意せねばならぬ。[4]

二　次に中小工業者の資金需要者としての條件は次の如き特徵をもつ。金融市場にいま問題とする不完全競爭が行はれ、資金供給者の意思が或る程度まで價格を動かし得る事は、供給が限られてゐるほかに需要の側において主として需要者の條件、即ち中小工業者の資力もしくは事業の性質に基くものに外ならぬ。第一に資本が乏しく設備機械が簡易であり、有價證券の如き換金性大なる資產を多く持たない。物的擔保に乏しいことは、原則として物的擔保によつて融通する一般金融機關に、この方面への活動多きを期待し難い一の理由である。[5]信用、即ち人的擔保といへども勿論債務者の不特定の資產を擔保とするものに外ならないが、この點においても中小工業者は不利なりとされる。即ち第二に人は中小工業者の經營には不合理が多いといひ、危險視するのである。事實

3)　例へば松崎壽、本邦中小工業金融論、21頁以下等。
4)　拙稿、愛知縣毛織物工業に於ける金融(本誌昭和16年12月號)參照。
5)　三村稱平、我國中小商工業金融に就いて(三田學會雜誌、第33卷第8號)。

は決して不合理が多いとばかりはいへず、簡易なる經營方法が屢〻生產費を切下げてゐるのである。[6] また景氣その他の變動に對しても直ちに抵抗力が小さいのではなく、その經營の伸縮容易なる點はむしろ强味である。けれども上記の如き常識にも一二の理由がある。中小工業の經營は多く個人經營もしくはそれに近いものであつて、その內容は外部より察知し難い（問屋、原料商などは原料又は製品取引を通じて經營內容を知り得るが故に、彼等の金融が果敢に行はれる）。またこれら業者は屢〻資本主義的訓練に乏しく、經驗に基いて平常通りの生產を續けるのが常であるから、[7] 種々の變動を見透して速やかに之に適應する能力において十分でない（織物業者などは例外に屬するであらう）ばかりか、變動に際して損失の負擔を大工業者や商業者より轉嫁されることが少くない。要するに以上の如きは何れも個々の業者によつて區々であり、優秀なる能力をもつものに於ては中小工業者もこの意味では十分な信用をもつ筈であり、現にこの方面に相當の經驗を有する銀行業者は、工場主の經歷手腕によつて融通するならば想像されるほど大なる危險がないといふ。[8] たゞ物的擔保を原則とする一般金融機關に、中小工業者の經營、人物に立入ることを求めるのは容易でなく、中小工業金融について金融業者の特別の關心と熱意とを必要とするのはこれがためである。逆に工業者が上記の條件において劣弱なる場合には社會的勢力關係の作用する餘地大であつて、高利その他の苛酷なる融通條件が課せられることゝなる。

三　轉じて供給の側を見る。中小工業に對する資金の供給は單一なる源から出るものではない。次の如き數種の資金が取引され、その一部分のみが直接に一般金融市場と連絡する。而してこれら各種の金融機關に對して供給される資金はまたそれに應じて異る。

まづ中小工業の資金借入先調査によつて取引金融機關の種類と割合とを見る。この種統計は東京市、神戸市等

6)　拙著、下請制工業論、54、64頁等。
7)　前揭拙著、79、285頁等、Schumpeter, J., Theorie der wirtschaftlichen Entwicklung, S. 4, 122 參照。
8)　東京商工會議所、中小商工業金融の改善策（座談會記錄）5頁。

の工業調査書(昭和七年末)、大阪商科大學楠見教授の大阪市に於ける中小商工業金融調査(昭和六—七年)、名古屋高等商業學校による愛知縣毛織工業經營調査(昭和十年)などを見るが、その結果は多少の差こそあれ、大なる共通性を示し極めて興味が深い。數字は夫々の調査報告書にあり、屢々轉載[6]されてゐるから紙幅の關係上、これを省き結果をこゝに要約する。

まづ銀行(信託會社、保險會社)は零細工業者に對して殆ど融通を與へず、中以上の工業者にあつて始めて取引し五十萬圓位の資本金を有するものに對してはその金融の三分の一乃至半ばを占める。次に本來の中小工業金融機關たる信用組合、工業組合、無盡會社、庶民金庫、恩給金庫等は、その資本力の十分ならざるため全體として大なる働きをなしてゐないのは殘念である。以上二群は近代的金融機關であり、前者が一般金融機關であるに對し後者はやゝ特殊性を有する。前者の中には日本興業銀行、日本勸業銀行等の特殊銀行があり、これらは後者の一群と共に、預金のほか大藏省預金部低利資金といふ特殊な資金源をもつてゐる。第三に問屋、仲買商、原料商等の商業者がある。これは殆ど工業者の規模の大小を問はずその金融の二—三割を擔當してゐる。彼等は原則としては運轉資金の融通を與へるのであるが、時には設備資金をも、また消費資金さへも供與する。而して彼等の融通は商業者の蓄積からなされることもあり、また自己の信用と責任において銀行より借受け、之を間接に工業者に融通する場合もある。間接にまた或る程度まで一般金融機關と連絡ある部分である。第四に個人金融業者が中小工業者を通じて少からぬ部分を融通することは、それが屢々非常な高利を要求するけれども、それにも拘らず隱密かつ緊急の借入に應ずるが故に利用されてゐることゝ共に注意せられねばならぬ。第五に親戚知人が極めて大なる役割を果し、零細工業者の場合にはその金融の半ばまで擔當し、その他の場合にも三分の一乃至四分の一

6) 例へば高橋龜吉、現代中小商工業論、346頁、森喜一、日本中小產業の機構、208頁等。

は彼等の手にまつ有様である。親戚知人といふ中には實質的に個人金融業者も入つてゐるであらうが、多くは區區たる小貯蓄者であり、彼等はこの貯蓄を金融機關を通ぜずして工業者に利用せしめてゐるものである。かくして第四、第五群は一般金融市場と連絡すること一層疎なるものであり、前者は金融業者であらうとも中小工業者の困窮に乘ずるのであるし、また後者は本來金融業者でないから、これらに於ては利子の如きも金融狀勢と直接關係なく決定される可能性が多い。第三群に就いてもこの事は或る程度あてはまる。

四　以上の如くして一般金融市場と連絡せる銀行、その他近代的金融機關は、それのみにて中小工業金融をまかなふことが出來ない。たとひ豐富なる資金を擁してゐようとも、その金融機關としての必要條件たる信用保持の點から、またその他副次的理由から、中小工業の全需要に應じ得ず、一般金融市場のそれと著しく離れない利子、從つて比較的低い利子で貸出される資金は零細工業者まで行き渡らない。換言すれば中小工業金融市場の內部においてさへ資金の移動は極めて不自由である。問屋、仲買商、原料商等の資金は間接に金融市場に連絡するにも拘らず、金融を以て所謂商業資本的壓迫の槓杆とし、表面上の利子は如何にもあれ、工賃又は製品代金を切下げるなどの方法により實質上の高利となる。[10] また親戚知人は特殊事情より低利を得るに非れば、個人金融業者と共に相當の高利となること多く、一般金融市場の資金數量、利子水準と離れて動き得る。工業者が利子の高低よりも緊急の資金獲得を欲するとき、彼等に十分の信用がなくともこれらの部分では融通を與へるから、かゝる高利の取引が行はれるのである。要するに資金需要者の內容、條件にも種々のものが存し、單に利子の低位のみを要求せざる需要があること、供給者としてもまた近代的經營方法をとり信用を重んずる金融機關は資金供給の意思と能力において限られ、且つそのほかに、之を以て利子以外の利益を得、或は勢力關係によつて暴利をむさ

10)　高橋龜吉、前揭書、359頁。

ぼらんとする者もあることから、中小工業金融市場が顯著な特殊性をもち、しかもその中にある金融機關の間にもかなりの異質性が存することを知るのである。こゝで中小工業者の場合には彈力的資金供給、即ち創造信用の作用すること小なる事實も、[11] 高き利子水準に關係があるであらう。

三　一般金融市場との關係

一　中小工業金融市場がその需要及び供給の特殊性から一の部分市場を形成するとはいへ、その領域若くは境界は必ずしも明瞭でない。需要者のうち小規模なる工業者は大工業者と比較して相當に顯著な異質性を示すけれども、やゝ規模大なるものに於ては何れに屬すべきや明らかでない。彼等に對して銀行よりの融資が多いのもそれが大商工業者と共通なる要素が多いのに因る。然しながら規模小なるに從つて大工業者との異質性が強くなるとすれば、かゝる需要の特殊性を取り出してその觀點から問題を見ることは十分意義あることゝ思はれる。供給者の側においては前述の如く、中小工業に特有なる金融機關において分化が比較的明瞭であるが、一般金融機關においてやゝ確然としてゐない。然しこゝでも中小工業金融市場を構成する分野をとり出して研究することは無意味でなく、むしろかゝる需要及び供給の中間層あるが故に兩者の關係が種々の問題を生むのである。

まづ中小工業金融の供給者のうち、統計の得られざる問屋、個人金融業者、親戚知人等を除き、一般金融機關（銀行、信託會社）と中小工業の專門金融機關（市街地信用組合、無盡會社、商工組合中央金庫、庶民金庫、恩給金庫）とが中小工業のうちで如何なる比率を占めてゐるかを見る。そこで資金數量の狀態が概觀せられ、進んでその資金源泉及び移動における關係が問題となるであらう。利子の關係については多くを明らかにし得ないが、そこにも興味

11)　拙稿、中小工業と創造信用（本誌、昭和17年9月號）。

ある問題があると思はれる。

一般金融機關と中小工業の專門金融機關との貸付高を比較して見よう。こゝでは全國金融協議會調査により昭和十五年十二月末現在において手形貸付と證書貸付の殘高をとる。まづ一人借入高十萬圓未滿をかりに中小貸付十萬圓以上を大口貸付と呼ぶならば、中小（商工業）貸付は二十七億九千萬圓、商工業者に對する手形貸付及び證書貸付の全體のうちで二〇％弱を示し、又そのうち工業者への貸付は九億餘圓、即ち三分の一を占めるのみ。これにより中小工業金融の一般金融市場に占める地位が一應わかる（尤も商業者又は大工業者を通じて與へられる金融はこゝで暫く除外される）。

次に中小貸付について各種金融機關の活動を見るに、中小工業の專門金融機關は上掲總貸付高のうち五％强を占めるに過ぎず、極めて地位の低きを知るが、中小貸付のみに關しては約二八％を占めて

第1表　商工業者に對する手形貸付及證書貸付高

（昭和15年12月末）單位千圓

	調査機關數	一人十萬圓未滿	一人十萬圓以上	合計
特殊銀行	12	454,824	3,073,792	3,528,616
普通銀行A	11	528,198	5,774,261	6,302,459
普通銀行B	245	807,987	1,286,993	2,094,980
貯蓄銀行	72	272,570	17,430	290,000
信託會社	27	50,401	1,327,080	1,377,482
以上小計	367	2,113,981	11,479,508	13,593,439
市街地信用組合	256	165,227	5,768	170,995
無盡會社	155	468,782	20,464	489,246
商工組合中央金庫	1	27,899	44,404	72,304
庶民金庫	1	10,056	1,697	11,754
恩給金庫	1	13,025	0	13,025
以上小計	414	684,990	72,346	757,336
合計	781	2,798,972	11,551,893	14,350,865

全國金融協議會（中小商工業金融連絡部會）調査。

普通銀行A、第一、三菱、三井、安田、三和、住友、第百、野村、愛知、名古屋、神戸の十一行。

普通銀行B、全國地方銀行協會加盟の243行及非加盟の2行。

第 2 表　工業者に對する手形貸付及證書貸付の金額別貸付高

（昭和15年12月末）單位千圓

	一人千圓未滿	一人五千圓未滿	一人一萬圓未滿	一人五萬圓未滿	一人十萬圓未滿	合計
特殊銀行	3,742	20,294	16,547	61,137	36,471	138,194
普通銀行A	528	8,411	12,776	105,022	92,509	219,248
普通銀行B	5,840	33,483	31,727	150,755	88,241	310,049
貯蓄銀行	11,707	29,868	16,877	23,823	2,169	84,446
信託會社	41	598	912	7,490	9,612	18,655
以上小計比率	(34.63)	(63.42)	(75.82)	(87.65)	(94.61)	(80.90)
市街地信用組合	6,282	14,188	8,167	13,193	167	41,999
無盡會社	30,566	37,071	14,818	27,892	9,162	119,511
商工組合中央金庫	23	957	2,019	7,990	3,716	14,707
庶民金庫	3,743	0	0	0	0	3,743
恩給金庫	648	1,217	135	0	0	2,001
以上小計比率	(65.37)	(36.58)	(24.28)	(12.35)	(5.39)	(19.10)
合計	63,123	146,093	103,982	397,305	242,052	952,557
合計比率	(100.00)	(100.00)	(100.00)	(100.00)	(100.00)	(100.00)

全國金融協議會調査。

ゐる。

更に工業者のみについてやゝ詳しく借入金額別に見るならば、中小工業の專門金融機關は千圓未滿の工業者に對しては六五％の多きを占め五千圓未滿のものに於てもなほ三六％を示すから、かゝる小規模工業者に對しては相當な金融的活動を行つてゐることがわかる。それ以上の階級においては、普通銀行B、卽ち地方銀行と貯蓄銀行とが活動し、特殊銀行及び普通銀行が相當の融資をなすに至るのは遙かに規模の大なる工業者に對してゞある。

二　次にこれら中小（商工業）貸付の資金源泉は何處にあるか。供給は何に依存するであらうか。特殊銀行においては債券發行によつて資金の調達をすることも出來るが、一般金融機關においては各種の預金者の貯蓄を主とし、從つて供給を決定する特殊なる事情はない。むしろ各種預金者より受入れたる預金を大口貸付と中小貸付とに配分するに當つての金融業者の營業方針が問題であつて、例へば銀行首腦

者が大商工業中心の營業方針をとるか、中小商工業への貸付に多少の努力をするかによつて決まり、また後の場合にも、その時々の景氣狀勢から判斷して大企業に資金需要が大であり、そこへの貸付が有利安全なりと見れば屢々中小工業への融通を制限するが、逆に大企業の資金需要が減ずれば中小企業も比較的容易に融資を受ける。事實、昭和十三年頃、政府資金の莫大なる撒布あり、なほ生產力擴充が本格化せざる金融緩慢の時には、銀行は遊資を抱いて中小工業部面にも相當の融通を與へんとした。ところが十四年下半期以後、公債消化と重點的生產擴充が大なる資金需要を齎し、また國際狀勢その他から金融市場の逼迫を示すに至るや、中小工業金融は最も打擊をうけ、十五年七月七日の奢侈品等の製造販賣制限の頃には工業者の苦痛は金融的側面から一層加重されたほどであつた。

中小工業の專門金融機關における資金源泉の一半は預金、殊に中小工業者の預金であり、他の一部は特殊の方法による資金である。さきの特殊銀行(興業銀行、勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行)におけると同樣に商工組合中央金庫、產業組合中央金庫、庶民金庫、恩給金庫においては債券發行によつて大藏省預金部、又は官廳關係共濟組合、一般金融機關等より資金を調達することが出來る。これら債券の購入先が如何に分布してゐるか明らかでないが、一般金融機關が購入せるだけは、そこに一旦集められた貯蓄が中小商工業の方面へ再配分されることを意味する。最も注意すべきは預金部の購入額であり、これが預金部低利資金の融通額となる。同じ昭和十五年十二月末において中小商工業振興資金の供給決定額四千餘萬圓、中小商工業轉換資金は千五百餘萬圓、合計五千五百九十餘萬圓であるから、前揭調査の中小貸付二十七億圓に比すれば僅かのものではあるが、このほか商工組合中央金庫、產業組合中央金庫には各種組合普通事業資金もあり、預金部資金の融通限度が二萬圓(振興資金)又は

第3表　大藏省預金部中小商工業關係資金供給決定額（單位千圓）昭和15年12月末

	振興資金	轉換資金
興業銀行	11,372	3,821
拓殖銀行	816	594
勸業銀行	18,536	
農工銀行	7,226	
庶民金庫	225	
產業組合中央金庫	3,156	3
商工組合中央金庫	5,343	10,858
合計	40,681	15,277

三萬圓（轉換資金）であるから、かりに一萬圓未滿の借入をなせるものゝ借入高（約十二億圓）と對比するときは四％强に當る。それにしても預金部資金のかゝる融通額はこの資金のもつ合理性を發揮せしめるのにも、また一般金融市場より中小金融の方面へ配分される資金が大商工業の資金需要のまゝに伸縮されるのを補塡するにも、あまりに少なすぎはしないであらうか。たゞ郵便貯金の最近の激增にも拘らず、地方資金（中小商工業關係資金は之に屬する）への運用割當があまり增加しないのは公債消化及び國策的金融部面の擴大によるものである。

問屋よりの供給資金は包括的な統計がなく、確實な數字を知り得ない。またそれは市況に應じて著しく變化するが、東京市（工業調査書）では銀行貸付高と殆ど同額を示し、大阪市（商科大學調査）では銀行貸付の三分の一に當るとすれば、昭和十五年頃には少くとも十億圓以上の問屋金融が行はれたことを推定せしめるが、たゞこの頃には他の機會に明らかにした如く、問屋金融は既に後退しつゝあつた。問屋金融を後退せしめたのは、配給機構の整備と、工業者自身の收益增加から來た蓄積であることは疑ひない。[12] 親戚知人よりの金融は極めて受動的なることを特徴とする。

四　中小工業金融の利子率

中小工業金融市場における利子は一般に高い。統計によつては、なかに無利子又は極めて低利のものが若干現はれてゐるが、[13] どこまで事實であるか疑はしいのみならず、また例へば問屋、仲買商、原料商よりの融資に於て

12）拙稿、統制組織と問屋金融（本誌、昭和15年9月號）、事變下の中小工業と金融（同17年2月號）。
13）高橋龜吉、前揭書、358頁。

は、利子以外に加工賃又は製品代金を切下げ原料代金を引上げる如き方法によつて實質上、高利と同樣の結果を擧げるのが少くない。かくして一般に高い利子は何によるものか。

第一には利子の中に含まれる危險保險料的部分が大なることである。また第二に手數料的部分が大きい。若しそれだけであるならば、一般金融市場に低金利が進行すればそれと併行して中小工業金融市場の利子も低下する筈である。けれども更に第三に社會的勢力の作用する分野が大きいことが注意されねばならぬ。さきに述べたる如く、中小工業に於ては資金需要が小なるに拘らず信用調査その他の手續が必ずしも簡易とならないために、資金コストを高める。全國金融協議會が昭和十五年末にその中小商工業金融專門委員會に於て決定發表した改善案の中にも「損失補償制度とは別に貸付高に應じ一定割合の補給金交付の途を攻究すること」なる一項を入れてゐるのもこれを物語るものに外ならぬ。然し中小工業金融市場の利子を高める上に於て最も重大なる作用を及ぼすものは社會的勢力關係であらう。勞銀に對して勢力關係が働くのと同樣に、利子に對しても資金供給者の勢力が作用し、まづ零細工業者が前段に述べたる如き不利なる條件のもとに資金を得んとすれば、そこでは一般金融市場における資本用役の需要價格、卽ちその限界生産力をも遙かに超える高さの利子を支拂はねばならぬ。またそれは需要者が金融市場に關する知識に缺け、或は利子の低位以外のものを求め、しかも供給者の數が限られ、彼等が信用保持を重視するところから資金の移動が自由でないのに因る。問屋、仲買商、原料商等に融資を仰ぐ場合の如き、中小工業者は原料の手當、製品の販賣はもちろん、生產計畫の樹立まで彼等の指示を仰ぎ、ひいて金融的にもその支配に服するに至るのである。

他面から見て、銀行或は中小工業の專門金融機關において比較的低利であり、問屋、原料商等、或は親戚知人

においてやゝ高く、更に個人金融業者に於て最も高利なるは、社會的勢力關係の作用が強いことを示すに足る。要するに中小工業金融市場においては保險料又は手數料的部分にもまして、勢力關係が利子を高めてゐることは殆ど疑ひないであらう。

利子低下傾向における兩市場の關係も以上のところからほゞ明らかとなる。卽ち經濟的、社會的勢力關係が働いてゐるから、低下傾向においても一般金融市場に直ちに追隨しない。然しながら中小工業金融市場のうちにも一般金融市場に直接また間接に連絡ある部分と連絡の少き部分とがあり、これらと一般金融市場とは完全に分離されたものではなく、夫々限られてはゐても、或る程度の競爭關係にある。例へば個人金融業者があまりに高利なるとき需要者の一部は親戚知人に融通を求め得るであらうし、問屋金融が實質上の高利を續けるとき、工業組合の金融事業又は信用組合が預金部低利資金にて低利融通をなすに至れば、比較的有力な工業者の一部はそこへ移る。預金部資金は前述の如く金額の少い憾はあるが、この意味における金融市場合理化の作用は沒すべからざるものがある。また普通銀行、殊に地方銀行が遊資を抱いてゐるときには、中小工業の一部を問屋金融の對象から奪ふ。かくして中小工業金融市場の利子も、一般金融市場の低下傾向と併行して第一次世界大戰後徐々に低下の一途を辿つて來たやうであり、殊に昭和七八年以降の顯著な低金利政策がこゝに浸潤し、一般市中金利の動きに追隨して低下を續けてゐる。こゝで政府支出に基く創造信用の直接の供與はうけなくとも、それが分解して起つた所得の增加から間接の影響が大きいであらう。

東京市中金利において最低金利が昭和二年以降急速に低下したに對し、最高金利は極めて徐々に低下したことまた地方金利は昭和七年頃あるひは九年頃までは殆ど低下を示さず、それ以降にはじめて徐々に低下したこと等

は、中小(商)工業金融市場の金利の遲れを、そのまゝ示すものではないが、察知せしめる材料であらう。

東京手形交換所社員銀行の金利について見るに、各年十二月の貸付利子最低は昭和三年一錢六厘となり、六年やゝ反騰したがその後は低下を續け十一年はやくも一錢二厘となり、十五年には一錢一厘五毛に達したに對し、同最高は三年二錢五厘であり、その後極めて徐々に低下を續けてゐるものゝ、九年はじめて二錢を割り、十一年になほ一錢八厘、十五年に一錢六厘となつてゐる。また地方銀行金利を見るに、昭和三四年頃貸付利子の平均は二錢乃至三錢二厘見當であつて、暫らくはこの水準を續け、昭和八九年頃に至つてはじめて一錢五厘乃至二錢五厘位に低下したのであつた。

五　結　論

以上に於て金融市場が不完全競爭の狀態にあり、中小工業の金融市場はその中において一の部分市場をなすこと、並びに後者もまた異質的な幾つかの部分から構成されてゐることを知つた。中小工業者の資金需要における異質性は、まづ資力の相違、經營の性質から信用の厚薄が異り、從つて需要者としての條件において差等があることであり、その條件の不利なる場合には社會的勢力關係の作用する分野が極めて大きくなるのである。然しそれだけではない。中小工業者のうち零細なるものはかゝる不利なる條件にも拘らず、緊急かつ隱密の資金需要を充さんとするとき、利子の高下を問はないし、また問屋、仲買商、原料商より原料支給、製品の販賣より、更に進んで生產指揮に至るまでの機能を依存するときも、むしろ屢〻利子以外の要素が彼等にとつて重大である。中小工業の資金需要は單に低金利のみを以て全てが解決される問題ではない。

また供給者側を見るに近代的金融機關のほかに、問屋、仲買商の如き商業者、或は個人金融業者の如きものが活躍して、經濟的、經濟外的勢力關係を利用して苛酷なる條件を課することがあり、また親戚知人の如き非營業的

なるものが介入して來る。これらは一般金融市場と資金上の連絡が稀薄であり、從つてその利子水準とは離れた高利が行はれ得るのである。

かくの如き需要と供給の特殊性あるが故に中小工業金融市場には高き利子が支配してゐるけれども、またこの事は問屋或は個人金融業者の金融が存在の意義をもつことを物語るものに外ならぬ。[14] とはいへ勿論、中小工業金融の改善策がないわけではない。より低利な資金をかゝる部面へ容易に利用せしめるならば、或る程度の競爭によつて合理化作用を及ぼすことが出來る。庶民金庫、恩給金庫は小ながらその具體的な事例を示すものであるし各種金融機關を經由して融通される預金部低利資金もまた然り。

事變勃發以來のインフレーションの浸潤は中小工業の收益ならびに所得の增大を齎した。創造信用は直接彼等に與へられること少いが、所得の增加はひいて蓄積を增大し、中小工業の資本的基礎を堅實にしたのであつた。問屋又は個人金融業者よりの借入金を償還し得たものも少くなく、問屋金融の如きは明らかに後退を示した。然しながら國民經濟の中において占める中小工業の重要性が若干減退を餘儀なくされつゝある現狀においては、原料配給統制の强化、整理統合の進行に伴つて金融的困難の生ずることは當然であらう。こゝに於て他の方策として政府系の特殊金融機關又は預金部資金の擴充が望まれるわけであるが、從來中小工業金融に古き經驗をもつ日本興業銀行の如きも生產擴充資金の供給機關としての意義が强まり、普通銀行においても資金運用に公債消化と生產力擴充資金との重點主義的統制が加はりつゝあるし、更に預金部資金の運用も同樣なる重點がおかれてゐるといふ狀態にある。

14) Vogelstein, T., Die finanzielle Organisation der kapitalistischen Industrie und die Monopolbildung, (G. d. S. VI.) 2. Aufl., S. 389--391.